

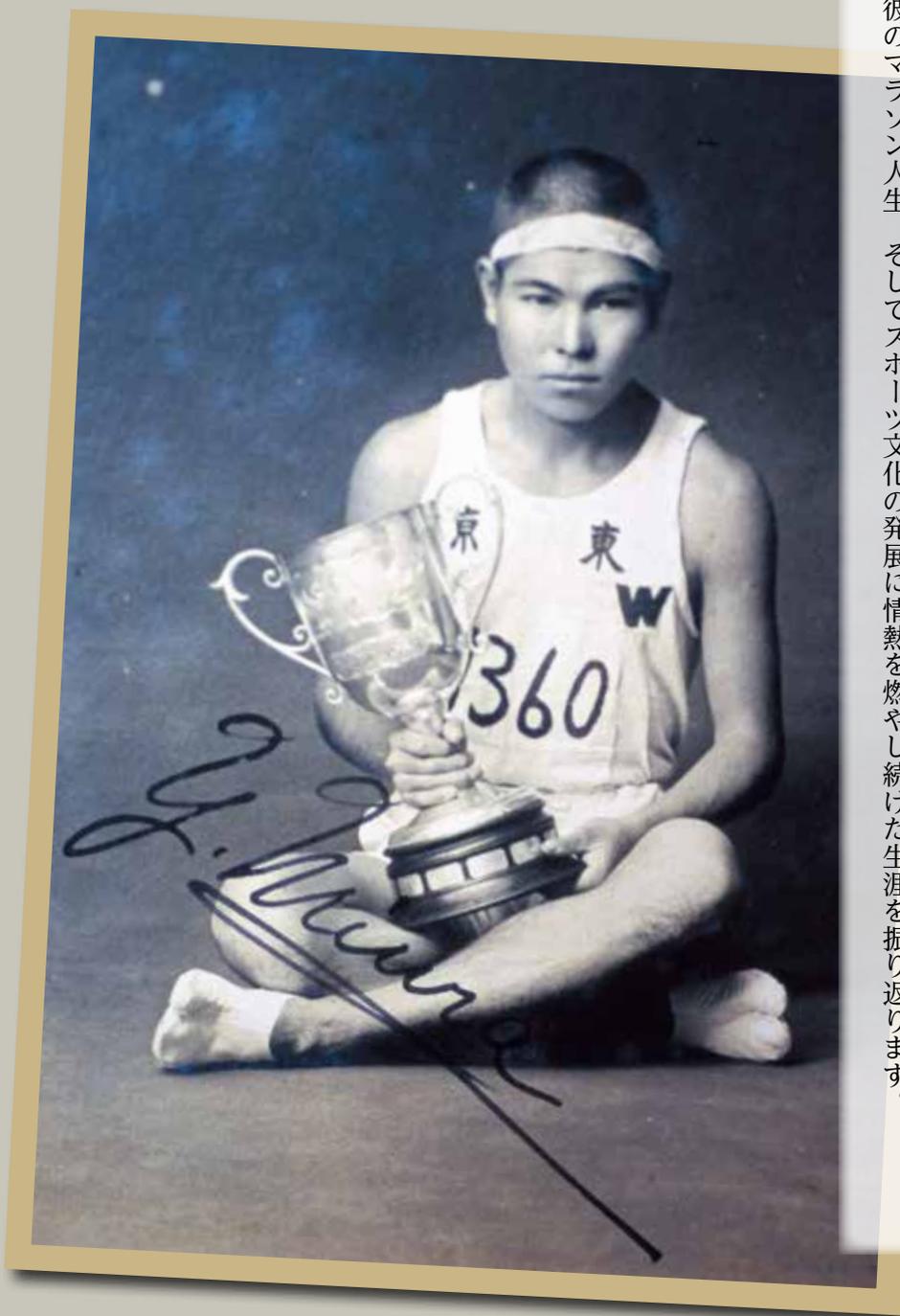
【特 集】

伊達の韋駄天



三浦 弥平

今から約100年前、福島県初のオリンピック選手が伊達市から誕生したことをご存知でしょうか。その選手の名は三浦弥平。東京2020オリンピック・パラリンピックの開催を翌年に控えた今、彼のマラソン人生、そしてスポーツ文化の発展に情熱を燃やし続けた生涯を振り返ります。



「スポーツこそは 吾人に何者よりも
強き力を与えるものである・・・」

三浦弥平、ドイツ留学中の論文「最近獨逸におけるスポーツの新傾向」より

弥平のマラソン人生を振り返る

意外にも幼少時は病弱だった弥平。しかし、病弱だった彼はやがて世界を舞台に活躍します。帰郷後、母校早稲田大学の講師の誘いを断り、故郷のスポーツ振興や青少年の健全育成に尽力しました。



ドイツ留学時代に出場した大会で力走する三浦弥平

弥平の原点、そして世界へ

弥平は1891（明治24）年4月に伊達郡白根村（現伊達市梁川町白根）に生まれました。

幼い頃から病弱で、刈田郡立刈田中学校（現宮城県立白石高等学校）在学時に6カ月休学しました。このとき、運動の必要性を痛感し、病気を克服して強い体になろうと走る練習を続け、マラソンランナーとしての基礎を築いていきます。

1915（大正4）年、早稲田大学政治経済学科に入学した弥平は競走部に入学。1920（大正9）年2月には第1回箱根駅伝大会に出場し、難所の箱根山登りを任せられました。卒業後、オリンピックアントワープ大会の出場をかけた予選会を勝ち抜き、金栗四三（NHK大河ドラマ「いだてん」の主人公）とともにオリンピック出場の切符を手に入れました。



早大時代の三浦弥平



アントワープ大会時と思われる日本選手団（弥平は最後列の中央）

年

じきゅう

- 1891 伊達郡白根村字木ノ田の蚕種製造を行う農家に生まれる
- 1898 白根村立白根尋常小学校に入学
- 1902 梁川町立梁川尋常高等小学校に入学
- 1907 刈田郡立刈田中学校（白石市）に入学
- 1915 早稲田大学政治経済学科に入学。競走部に入学
- 1919 第1回関東インターカレッジ25マイル（約40km）走で優勝
- 第7回日本選手権大会25マイル走で優勝
- 1920 第1回箱根駅伝大会で往路山登り区間（5区）を走る（早稲田大学は3位）

▼第7回オリンピックアントワープ大会開催

- 福島県初のオリンピック選手として出場。成績は24位
- ※同大会には、金栗四三ら4選手がマラソン（42・750km）に出場
- 1921 ドイツに留学。ベルリン大学で経済学を専攻
- 1923 ドイツ体育大学に入学

2度のオリンピック出場

1920年8月14日、アントワープ大会が開幕。マラソンは8月22日に行われ、弥平は2時間59分37秒、24位でゴールテープを切ります。大会後、弥平は帰国する日本選手団と別れ、留学のためにドイツに赴きました。

ベルリン大学で経済学を専攻した後、ドイツ体育大学で体育学を学びました。そして、ドイツ国内の大会で好成績を収め、1924年のオリンピックパリ大会の出場選手として選ばれます。

パリ大会のマラソンは7月23日に行われ、スタンドには

満員の観衆が詰めかけました。しかし、この日は高温に見舞われ途中棄権者が続出。弥平も痛めていた足の痛みが激しくなり、棄権となりました。

スポーツを通して人をつくる

1928（昭和3）年に帰国すると、東北の農村や故郷の貧しい現状の改善に尽力しようと、白根村に帰郷。自身の体験から、スポーツを通じた青少年育成に向けて動き出します。

青少年の総合スポーツ施設「オリンピック村」の建設をはじめ、自宅を「白根体育公民館」として開放したり、地



ドイツ留学時代の三浦弥平



老年期の三浦弥平（昭和39年に梁川町役場町長室で撮影された写真）

- 1924
- ▼第8回オリンピックパリ大会開催
- マラソン（42・195km）と1万メートル競走に出場。成績はどちらも棄権。
- ※マラソンには、三浦弥平、金栗四三、田代菊之助の3選手が出場するものの、全員棄権
- 1928 ドイツ留学から帰国。地元で青年らと宮城県境に青少年の総合スポーツ施設「オリンピック村」の建設を目指す
- 1932 オリンピック村として、バンガロー、広場、スキー場などを建設
- 1938 日中戦争の影響で、1940東京オリンピックの開催権を返上
- 1942 満州建国10周年とスポーツ親善を目的に「東京・新京間親善マラソン」を実施
- 80歳で永眠。白根字高田の墓地に眠る
- 1980 第1回三浦弥平杯梁川ロードレース大会開催

【特集】伊達の章 天三浦弥平

伊達市にも東京オリンピック（1964）の名残が！



ほぼら大泉球場の観覧ベンチ

東京オリンピック（1964）のメイン会場であり、開会式と閉会式が行われた国立競技場。保原総合公園内にある、ほぼら大泉の球場の観覧ベンチは、当時のものではありませんが、平成26年に国立競技場から移設したものです。

1971（昭和46）年に永眠するまで、弥平は青少年の育成とスポーツ振興に心血を注ぎました。彼の功績は、スポーツ選手として優秀だったということだけに留まりません。弥平は人をつくり、地域をつくり、たくさんの人と強い絆を結びました。そして、その絆は現代にも引き継がれています。

三浦弥平の功績を称える2つの記念碑（上：白根地区 下：梁川駅前）





弥平の功績を現代に伝える

10/27 第40回
三浦弥平杯ロードレース大会
梁川総合支所前スタート・ゴール

参加者募集：6月27日(木)～9月4日(水)
詳しくは、広報紙や大会公式ホームページでお知らせします。



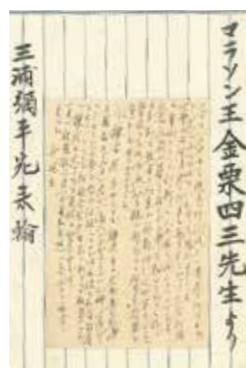
三浦弥平の母校、早稲田大学の競走部から招待選手が参加（写真は第39回大会）

☎ 三浦弥平杯ロードレース大会実行委員会
☎ 597-8015

9/28 東京オリンピック2020記念
福島が生んだオリンピック
三浦弥平と円谷幸吉

10/27 会場：梁川美術館
弥平に関するさまざまな資料を展示します

福島県初のオリンピック選手である三浦弥平と1964年の東京オリンピックで銅メダルを獲得したマラソンランナー円谷幸吉（須賀川市出身）。福島が生んだオリンピック2人の活躍と功績を紹介します。



↑三浦弥平（左）と金栗四三（右）

←金栗四三から三浦弥平に送られた手紙

☎ 伊達市梁川美術館 ☎ 527-2656



大会実行委員長
吉田 勝重さん

今回で40回目の開催

弥平さんの功績を後世に伝えるこの大会が40回目を迎えられることをうれしく思います。

いつかこの大会から弥平さんの後継者が誕生することを願っています。奮ってご参加ください！



横山 陽佑さん
(梁川中 - 聖光学院高 - 帝京平成大)

目指せ、第2の弥平！

私は白根で育ち、小学生の頃から走ることを身近に感じていました。

4月から東京の大学に進学し、箱根駅伝出場を目標に練習に励んでいます。「第2の三浦弥平」として活躍できるようにがんばります。

全国ランニング大会 100 撰に 14 年連続で選出

9/1 第59回 伊達ものの里マラソン大会
保原中央交流館前スタート・ゴール



応援よろしくお願いします！



100撰の表彰状
全国ランニング大会

Web申込
締切迫る！

ランニングポータルサイト「ランネット」からの参加申し込みは5月31日(金)までです。



大会公式HP

☎ 伊達ものの里マラソン大会事務局 ☎ 597-8015